古田史学の会「古代史の争点」出版記念講演会

公文で「九州年号」使用

服部氏、3点で石井氏に反論

田原本・浄照寺にファン50人集う

古田史学の会（古賀達也代表）は5月31日、奈良会場として田原本町茶町の松慶山浄照寺（佐々木智住職）で「古代に真実を求めて～古代史の争点」出版記念講演会を開催し、古代史ファン約50人が熱心に耳を傾けた。本は3月30日に明石書店より発行された。

同会はアマチュアの文献史学の会で、毎年、明石書店からシリーズ「古代に真実を求めて」という冊子を刊行し、全国で出版記念講演会を開催している。

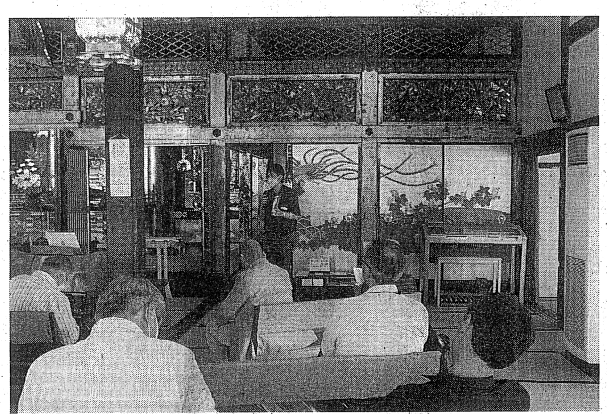
今年は5月1日に京都（キャンパスプラザ京都）、同月31日の奈良（松慶山浄照寺）を皮切りに、6月19日に大阪（アネックスパル法円坂）、7月31日に東京（文京シビックセンター）で開催した。続く8月6日に福岡（久留米大学福岡サテライト）、同7日に久留米（久留米大学御井キャンパス）と計画されている。

各会場での講演テーマは異なるが、ここでは奈良での講演会を追ってみる。奈良での講演は3人が講師として、次の発表を行った。

①大原重雄「多元史観で見る藤原鎌足」

②服部静尚「仏教はいかに伝わったのか～現世利益の経典」

③正木裕「利歌彌多弗利～もう一人の聖徳太子」



開会あいさつをする古賀代表

聖徳太子研究の権威 石井公成氏に質問

服部氏は、講演の最後に、石井氏とのやりとりを紹介した。

【石井公成氏よりの回答を受けて】

服部　「古代に真実を求めて」第25集「古代史の争点」、明石書店2022年3月発刊に、『聖徳太子と仏教～石井公成氏に問う』と題して、聖徳太子研究の権威の一人である石井公成氏に次のように問い、氏のブログで、5月11日、長文の回答をいただいた。おおむね次のとおり。

◇四天王への戦勝祈願

【問い①】

厩戸皇子の四天王戦勝祈願は（石井氏は古今の通例とされるが）筋違いではないか？　四天王による護国を説くのは金光明経だけであって、そこには「金光明経を恭敬供養する者を四天王が護る」とある。直接、四天王に祈願するのは筋違いではないか。

【石井氏の回答】

私は四天王への戦勝祈願を古今の通例とは書いていない。何かしら士気鼓舞のための戦勝儀礼を行うのが普通だと書いたのだ。四天王への祈願は金光明経が流行すればなされうるものです。四天王のために寺塔を建てて金光明経の講経をしないなどということはありえない。

【回答を受けての再疑問】

四天王への祈願ではなく、戦勝祈願が古今の通例だと言う点、私の勘違いですみません。

ところが、四天王への祈願は筋違いという私の指摘に対してのお答え「金光明経が流行すればなされうるものだ」については疑問がある。『金光明経』には、この経典が諸経の中で最も優れたものであって、この経典を受持読誦するものは四方四仏・諸天に守護されると説く。この経典を講説する者に大弁天女が財物を与え、功徳天女が福徳をもたらし、堅牢地神が豊作をもたらす。このような現世利益の一つに四天王による国王と国の守護がある。寺塔を建てた後に講経するのは当然だが、戦勝祈願としては当然講経が先だと経典を読めば分かる。

6世紀末の聖徳太子の時代のずっと後に、7世紀の後半以降となると四天王法による法会が行われている。四天王の像の前で17日間、昼は金光明経を読み、夜は神咒（かじり）を唱える。経典の内容を知らずに、この法会を見た人は直接四天王に祈願しているように見えるだろう。石井氏が言われるように「金光明経が流行すればなされうる」だろう。しかし、（三経義疏をあらわしたとされる、当然経典に精通していたと考えられる）厩戸皇子がそのような筋違いの祈願をするとは到底考えられない。石井氏は厩戸皇子は経典に精通していなかったとみられるのか。

藤原鎌足について話す大原編集長

◇女性蔑視の仏教

【問い②】

法華経の提婆達多品が説く変成男子によると、女性は本来成仏できない存在であることを前提としている。当時の女性蔑視の仏教を推古女帝が興隆させるだろうか。

【石井氏の答え】

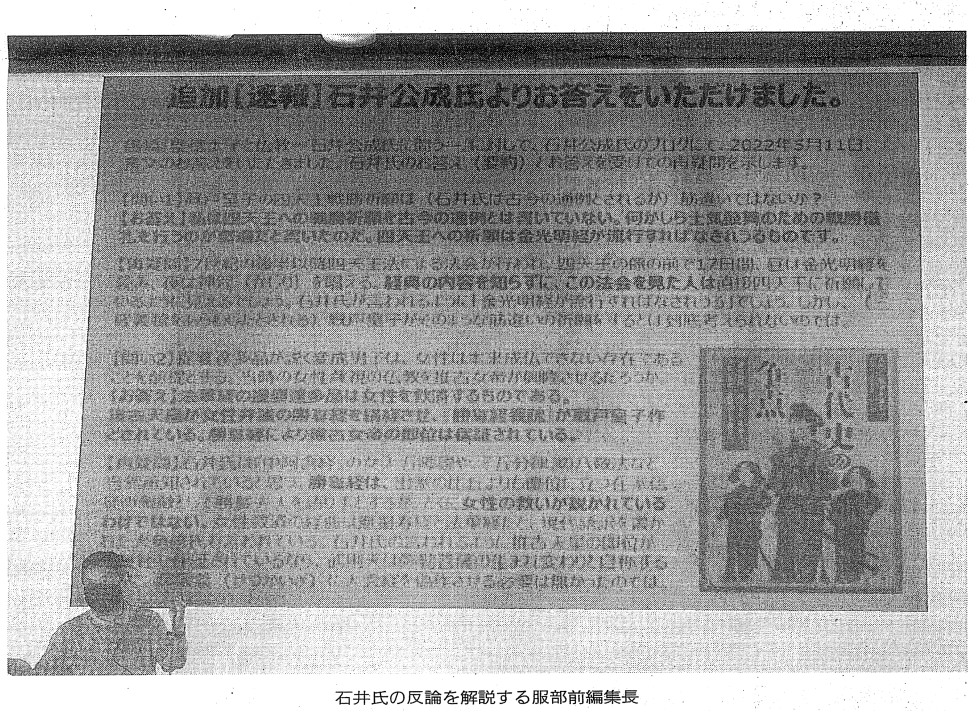
法華経の提婆達多品は女性を救済するものである。推古天皇が女性弁護の勝鬘経を講経させたこと、『勝鬘経義疏』が厩戸皇子作とされていることを忘れているのではないか。勝鬘経により推古女帝の即位は保証されている。

【回答を受けての再疑問】

石井氏は仏教経典に精通されているので、『中阿含経』の女人五障説や、『五分律』の八敬法、そして「若不聴女人出家受具足戒、則佛之正法住世千歳。今聴出家、則滅五百年」など、当時の仏教界が女性差別をしていたことを当然承知されていると思う。女性が成仏できないという前提で法華経が書かれていることは、経典に出てくる舎利弗の言葉で自明です。その上で法華経は一切衆生が成仏できると説く教典である。提婆達多品では、悪人でも成仏できる、女性でも男に生まれ変わって成仏できると救済しているのです。

ところが、5世紀初頭鳩摩羅什が漢訳にはこの提婆達多品が欠けている。そして上宮王作『法華義疏』にも提婆達多品が欠けている。悪人救済、女性救済を伝えない鳩摩羅什漢訳法華経が当時の経典であり、女人五障のままで救済されない経典だったわけです。

石井氏が挙げた勝鬘経は、出家の比丘よりも優位に立つ在家信徒の象徴として勝鬘夫人（王妃シュリーマーラー）を語り手とするが、女性救済が説かれているわけではないのは経典を読めば分かる。女性救済の経典は無量寿経と法華経だと、勝鬘経の現代語訳を書かれた大角修氏もそう言う。もちろん勝鬘夫人は将来成仏するのだろうが、それは輪廻（りんね）の次の先での話しである。石井氏が推古天皇の即位が勝鬘経で保証されているというなら、その約百年後に武則天は弥勒菩薩の生まれ変わりと自称するために、薛懐義（せつかいぎ）に大雲経を偽作させる必要はなかった。



追加【速報】石井公成氏よりお答えをいただけました。

石井氏の反論を解説する服部前編集長

聖徳太子伝承の原典を解説する正木事務局長

◇九州年号

【問い③】

聖徳太子伝承に現れる九州年号をどのようにお考えか。『隋書』の阿毎多利思北孤をどのようにお考えか。

【石井氏の九州年号への回答】

九州年号は平安から中世にかけて偽作文献が盛んに作られた際に用いられ、広まったもの。

【回答を受けての再疑問】

石井氏の回答は、推測するに「九州年号は平安から中世にかけて（作られて）偽作文献で使い広まったものなので信用できない」ということなのであろう。そうであれば、次の事実をどう説明されるのだろうか。

①現存する最古の天皇家系図『本朝皇胤紹運録』には、「朱雀五年持統天皇即位、大化三年禅位」「朱鳥四年草壁皇子薨」等々、『日本書紀』には出てこない年号（九州年号）が使われている。石井氏の見方が正しければ、室町時代の朝廷内に残されていた帝王系図資料は「偽作された」年号で書かれていたことになる。本当にそのように信じられておられるのだろうか。

②『令集解』は「儀制令・公文条」「公文には年号を使用するよう」を次のように解説する。「凡公文応記年者。皆用年号。釈云。大宝慶雲之類。謂之年号。古記云。用年号。謂大宝記而辛丑不注之類也。穴云。用年号。謂云延暦是。同（問）。近江大津宮（大津宮）庚午年籍者。未知。依何法所云哉。答。未制此文以前所云耳。」

要約すると、「律令には年号を使えという法」があるとの説明に、「それでは近江大津宮庚午年籍はなぜ年号を使っていないのか」と質問がある。対して「その時にはいまだ年号を使えと言う法がなかったからだ」と答えている。この応答は「庚午の年、670年には年号があった。律令もあったのだが、儀制令のこの一文はなかった」と、当時も年号があったということを前提としている。「穴云」なので9世紀初頭の認識だ。

『日本書紀』には庚午年籍の670年に年号がない。しかし、九州年号は存在しており白鳳10年に当たる。そして、『続日本紀』神亀元（724）年10月、聖武天皇は「白鳳以来朱雀以前　年代玄遠　尋問難明～」と詔で、『日本書紀』にない九州年号、白鳳・朱雀を引用する。石井氏はこれをどのように説明されるのだろうか。

【石井氏の阿毎多利思北孤への回答】

阿毎を姓、多利思比孤を名と見るのは中国の誤解、個人名でなく倭国の王を指す言葉とする説が妥当。

【回答を受けての再疑問】

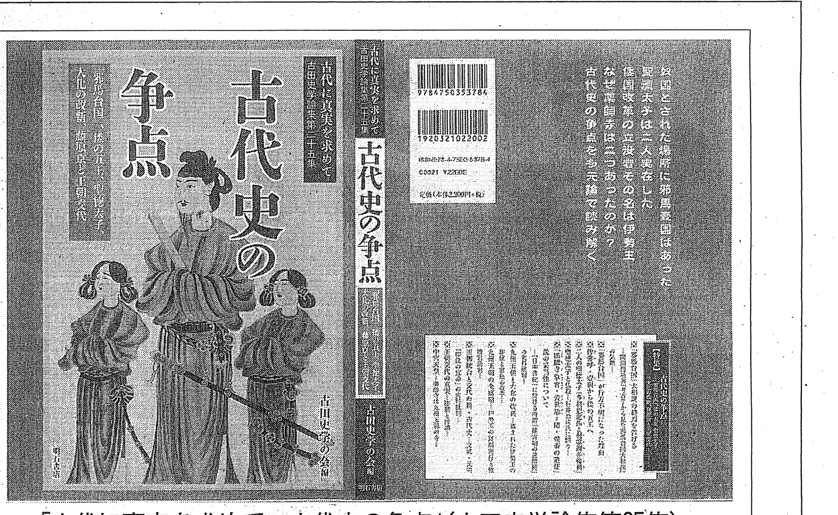
倭国の王には妻がいて後宮に女6、700人いたとあるので、推古天皇でないことは明白である。これをどう説明されるのだろうか。

【石井氏からの指摘】

石井氏は「九州に大寺院の遺跡も瓦窯がまったく発見されていない」とされる。

【私からの回答】

私は昨年末に、大阪歴史学会考古部会で、畿内と同じ瓦編年で見ると、北九州には7世紀初頭創建と見られる寺院跡が数多く存在した旨の発表をした。これまで九州における瓦編年は（考古学の所見ではなくて）『日本書紀』の記述を絶対視して作られていた。しかし、朝鮮半島内での瓦文様の変遷と、畿内における瓦編年とを照合して、同じ基準を採用すれば、そのような結論に至る。



「古代に真実を求めて～古代史の争点」（古田史学論集第25集）

「邪馬台国」、倭の五王、聖徳太子、大化の改新、藤原京と王朝交代

同書の今年の目次は次の通り。

【特集】古代史の争点―「邪馬台国」、倭の五王、聖徳太子、大化の改新、藤原京と王朝交代

【「邪馬台国」】「邪馬台国」大和説の終焉を告げる―関川尚功著『考古学から見た邪馬台国大和説』の気概［古賀達也］／「邪馬台国」が行方不明になった理由［正木裕］

【倭の五王】俾弥呼・壹與から倭の五王へ［正木裕］

【聖徳太子】二人の聖徳太子「多利思北孤と利歌彌多弗利」［正木裕］／聖徳太子と仏教―石井公成氏に問う［服部静尚］／「鴻臚寺掌客・裴世清＝隋・煬帝の遣使」説の妥当性について―『日本書紀』に於ける所謂「推古朝の遣隋使」の史料批判［谷本茂］

【大化の改新】九州王朝と大化の改新―盗まれた伊勢王の即位と常色の改革［正木裕］／九州王朝の全盛期―伊勢王の評制施行と難波宮造営［正木裕］

【藤原京と王朝交代】王朝統合と交代の新・古代史―文武・元明「即位の宣命」の史料批判［古賀達也］／王朝交代の真実―称制と禅譲［服部静尚］／中宮天皇―薬師寺は九州王朝の寺［服部静尚］

【コラム】①『鬼滅の刃』ブームと竈門神社／コラム②小野妹子と冠位十二階の謎／コラム③教科書から聖徳太子は消えるのか？／コラム④北部九州から出土したカットグラスと分銅

「古代に真実を求めて～古代史の争点」のQRコード

【これからの講演会】

〈福岡会場〉

8／6（土）13:00～17：30

参加費500円

〔会場〕久留米大学福岡サテライト（福岡県福岡市中央区天神1の4の21）

■福山裕夫「近年の科学的エビデンスから見た古田史学～古天文から」

■服部静尚「大宰府の成立～瓦と須恵器より」

■正木裕「改めて確認された博多湾岸の俾弥呼の宮都」

〈久留米会場〉

8／7（日）13:00～17：30

参加費500円

〔会場〕久留米大学御井キャンパス（福岡県久留米市御井町1635）

■福山裕夫「近年の科学的エビデンスから見た古田史学～海洋考古学の結果から」

■正木裕「白鳳元年の変～専守防衛の伊勢王」

■服部静尚「続日本紀が正直に語る王朝交代」